

【研究報告】

岸 牧 人

- ・研究報告「財務諸表監査における保証水準の制約条件としての重要性水準」東京会計研究会，2024年3月2日

後 藤 浩 子

2020年4月から2024年3月までの研究業績は以下のとおりです。

著 書

- サドッホ（澤野雅樹・矢作征男と共著）『セックス：強度と発生』法政大学出版社，2021年10月。

論 文

- ①（単著）「未来に投企する者としての〈母〉——ドゥルシラ・コーネル追悼」『大原社会問題研究所雑誌』785号，2024年3月，2-26頁。
- ②（単著）「ロバート・オウエンのアイランド訪問—クロンクリ卿とウィリアム・トンプソン」『大原社会問題研究所雑誌』754号，2021年9月，33-49頁。

翻 訳

- ①「『翻訳』ロラン夫人「ブザンソン・アカデミー懸賞論文：男性／人間をよりよいものにするために女性の教育はどのように貢献できるか？」『経済論集』（関西大学）71巻4号，2022年3月，363-383頁。

- ② (清水和子・梅垣千尋と共訳) メアリ・ウルストンクラフト『人間の権利の擁護／娘達の教育について』京都大学学術出版会，2020年8月。

書評

- ① 「ジュディス・バトラー著，佐藤嘉幸監訳・竹村和子，越智博美ほか訳，『問題＝物質（マター）となる身体―「セックス」の言説的境界について』『社会思想史研究』47号，2022年9月，241-244頁。
- ② 「岩井淳・竹澤佑丈『ヨーロッパ複合国家論の可能性：歴史学と思想史の対話』『エール：アイルランド研究』（日本アイルランド協会），41号，2022年3月，44-49頁。

学会報告関連

- ① セッション報告「情操形成における「他者」の役割：保育者と女性市民」社会思想史学会大会第48回大会，2023年10月29日，南山大学。
- ② シンポジウム報告「漆工と工芸作家：菅原精造と日本漆芸」法政大学比較経済研究所・京都工芸繊維大学KYOTO AGORA コモンズ研究会主催シンポジウム『漆（うるし）―輸出される技工』，2023年11月12日，京都工芸繊維大学。
- ③ シンポジウム報告”Collaboration between a Designer and a Lacquer artisan: Development of the Production Model of 19th century Haute Couture Maison”，法政大学比較経済研究所・アントワープ大学共同主催シンポジウム “Shaping Crafts and Terroirs at Global Fairs. Local, National, and Transnational Contexts, c.1880 to the present”，2024年2月17日。
- ④ セッション報告『『アンティゴネの主張』における「母」の消去』，社会思想史学会第47回大会，2022年10月16日，専修大学生田キャンパス。
- ⑤ 早稲田大学高等研究所高等研究所セミナーシリーズ【グローバル・ヒストリー研究の新たな視角】公開講演会「ジャコバンと共和政―歴史学と思想史の対話―」，コメンテーター，2021年12月11日，※オンライン開

催

- ⑥セッション企画・コメンテーター「社会思想におけるリプロダクション：社会と再生産する身体」社会思想史学会第46回大会，2021年10月30日，※オンライン開催
- ⑦セッション企画・コメンテーター「社会思想におけるリプロダクション：スミスとケインズにおけるリプロダクションの問題」社会思想史学会第45回大会，2020年10月24日，※オンライン開催

近 藤 章 夫

<論文>

- 近藤章夫（2022）：Moving Away from the Branch Plant Economy: A Case Study of Yonezawa Region in Japan, 『経済志林』89巻4号, pp.463-479.
- 近藤章夫（2022）：Urbanization and Agglomeration Economies: A Concise Research Review, 『経済志林』89巻2号, pp.1101-1117.
- 近藤章夫（2021）：大都市圏の産業集積と企業地誌——電機・電子産業の事例, 『経済志林』88巻4号, pp.587-610.

<書籍>

- 分担執筆，宮町良広ほか編（2024）『地域学——地域を可視化し，地域を創る』古今書院.
- 分担執筆，小野映介・上杉和央編（2023）『みわたす・つなげる地誌学』古今書院.
- 分担執筆，松原 宏編（2022）『新経済地理学概論』原書房.
- 分担執筆，松原 宏編（2022）『地域経済論入門（改訂版）』古今書院.
- 共著，上杉和央・香川雄一・近藤章夫編（2021）『みわたす・つなげる人文地理学』古今書院.
- 分担執筆，小野映介・吉田圭一郎編（2021）：『みわたす・つなげる自然地

理学』古今書院.

共著, 帝国書院編集部 (2021):『新・日本のすがた (5) 関東地方』帝国書院.

<口頭発表>

近藤章夫 (2022): イノベーションの視点からみた日本の地域経済, 日本学術会議地域研究委員会第6回地域学分会.

坂本 憲 昭

紀要・研究所報・論文・査読付き論文

【2023年度】

町丁目区分におけるコンパクトシティの高齢化と東京都江東区湾岸タワーマンション地域の高齢化統報, 経済志林

Google検索による小分類事業所数の取得について, 統計学, 経済統計学会大正時代におけるドーナツ化現象の表現手法, オケージョナル・ペーパー, 日本統計研究所

コンパクトシティとして見る団地の考察, 経済志林

【2022年度】

コンパクトシティのサーベイー徒歩20分圏内及び団地と東京湾岸地域一, 経済志林

フィードバック制御による待ち行列のシミュレーション, 経済志林

【2021年度】

高齢化率と経年変化からみる事業所数モデルの考察, オケージョナル・ペーパー, 日本統計研究所

自動車保有台数からみるSS過疎地に関する考察, オケージョナル・ペーパー, 日本統計研究所

東京湾岸地域の人口増加と郵便局の考察, オケージョナル・ペーパー, 日

本統計研究所

【2020年度】

Reducing nonpriority queues at theme parks, Journal of Hospitality and Tourism Insights, Emerald Publishing Limited

口頭発表

【2023年度】

大正時代における関西のドーナツ化現象について, 経済統計学会, 全国研究大会

【2022年度】

事業所数Google検索についてDeep learningによる検証, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 秋季研究発表会

Google検索による小分類事業所数の取得について, 経済統計学会, 全国研究大会

台湾における事業所数の考察, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 春季研究発表会

フィードバック制御による客到着率の取得, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 春季研究発表会

【2021年度】

自動車所有台数からみたSS過疎地に関する考察, 経済統計学会, 全国研究大会

事前予約システムにおける提案手法の数列による解析, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 春季研究発表会

東京湾岸豊洲地域の郵便局難民について, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 春季研究発表会

【2020年度】

数列モデルによるテーマパーク優先入場の解析, 電子情報通信学会ソサイエティ大会

競争的資金

基盤研究（C）一般：東京高層化地域における事業所変遷の実態と数理モデルの構築，2020-2023年（研究代表者）

篠原 隆 介

2020年4月から2024年3月の研究業績を、次の通り御報告申し上げます。

【学術論文】

公刊論文（査読付）

1. R. Shinohara (2021) Interregional negotiations and strategic delegation under government subsidy schemes, *Journal of Public Economic Theory*, vol. 23, pp. 551-582.
2. R. Shinohara (2021) Voluntary participation in international environmental agreements and authority structures in a federation: A note, *Environmental and Resource Economics*, vol. 79, pp. 25-32.
3. I. Macho-Stadler, N. Matsushima, and R. Shinohara (2021) Organizational structure and technological investment, *Journal of Industrial Economics*, vol. 69, pp. 785-816.
4. R. Shinohara (2023) Sabotaging teammates and rent dissipation in a rent-seeking contest, *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, vol. 179/2, pp. 288-319.
5. T. Hirai and R. Shinohara (2024) Voluntary participation in a negotiation on providing public goods and renegotiation opportunities. Accept with minor revision at *Journal of Economic Behavior & Organization*.

ワーキングペーパー

1. R. Shinohara (2024) Coalition-proof stability of international environmental agreements. SSRN Working Paper. DOI: 10.2139/ssrn.3887276

【学会・研究会報告】

1. 産業組織・競争政策研究会（2021年3月オンライン開催）報告論題：レントシーキングコンテストにおけるサボタージュ行為と新規参入について
2. 産業組織・競争政策研究会（2022年9月信州大学）報告論題: Voluntary participation in a negotiation providing public goods and renegotiation opportunities
3. 第28回ディセントライゼーションコンファレンス（2022年10月東京大学）報告論題: Voluntary participation in a negotiation providing public goods and renegotiation opportunities
4. 日本財政学会2022年度第79回大会（2022年10月東洋大学）報告論題： Voluntary participation in a negotiation providing public goods and renegotiation opportunities

【外部資金取得状況】

1. 科研費基盤研究C「公共財供給における戦略的委託問題：メカニズムデザイン理論による解決法の探究」2020－2021年度（研究代表者）
2. 科研費基盤研究C「国際公共財供給における戦略的不参加・委任問題の相互作用と国際交渉制度の設計」2021－2023年度（研究代表者）
3. 科研費基盤研究B「寡占市場における個人情報活用と消費者による個人情報管理の経済理論分析」2020－2021年度（研究分担者）

【受賞・表彰】

1. Top Downloaded Article in Journal of Industrial Economics:

2022年にJournal of Industrial Economics誌に出版された論文の中で、論文“Organizational structure and technological investment”が、最もダウンロード数の多い論文の一つとしてジャーナル編集委員会から表彰を受けました。

2. Reviewer Certificate from Journal of Public Economic Theory:

2022年のJournal of Public Economic Theory誌の査読活動に対して、ジャーナル編集委員会から査読者表彰を受けました。この年は、同誌に新規に投稿された3本の論文と1本の改訂原稿を査読しました。

【その他】

1. 第26回DCコンファレンス・TCERマイクロコンファレンス（2020年10月24日オンライン開催）プログラム委員
2. 第27回DCコンファレンス・TCERマイクロコンファレンス（2021年10月16日オンライン開催）プログラム委員
3. YouTubeチャンネル「日経テレ東大学・チャラすぎるマイクロ経済学」（監修の1人として協力）

【最後に】

今回研究報告を行う4年間は、コロナ禍の4年間となりました。先をも見えぬ不安定な社会経済状況の中で、研究活動をいかに維持していくのか、について大いに考えさせられ、何とか4年間を乗り切ることができました。幸いにも2023年4月から2024年3月まで、ニュージーランドのオークランド大学に在外研究で滞在し、新たな研究テーマへ挑戦する機会をいただくことができました。次の4年間で、現在進行中の研究を開花させることができるように、努力していきたいと思ひます。

芝田 幸一郎

以下に2020～2023年度の業績を報告いたします。なお2023年度は教授会主任を務めました。

【書籍等出版物】

芝田幸一郎

2021 「古代文明の形成と生業戦略」ラテンアメリカ文化事典編集委員会
(編)『ラテンアメリカ文化事典』pp.34-35, 丸善出版. ※事典

2021 「古代の食文化（アンデス）」ラテンアメリカ文化事典編集委員会
(編)『ラテンアメリカ文化事典』pp. 230-231, 丸善出版. ※事典

2022 「第8章：神殿は何を伝えたのか？ - 神殿の装飾に込められたメッセージ」関雄二（監修），山本睦・松本雄一（編）『アンデス文明ハンドブック』pp. 137-150. 臨川書店，京都. ※教科書

Chicoine, David, Hugo Ikehara, and Koichiro Shibata

2023 Beyond Chavín: The First Millennium BC in Nepeña. In *Reconsidering the Chavín Phenomenon in the Twenty-First Century*, edited by R. Burger, and J. Nesbitt, pp. 207-236. *Dumbarton Oaks Research Library and Collection*, Washington D.C. ※論文集

【口頭発表・講演等】

芝田幸一郎, デリシア・レガラード, 宮野元太郎

2023 「ペルー北部ネペニャ市周辺地域における形成期遺跡群の発掘調査」古代アメリカ学会第28回研究大会, 2023年12月2日, 京都外国語大学.

宮野元太郎, 芝田幸一郎, デリシア・レガラード

2023 「ペルー北海岸形成期マウンドの立地とその基礎構造—ネペニャ谷スーテ・バホ遺跡の事例から」古代アメリカ学会第28回研究大会,

2023年12月2日, 京都外国語大学.

Shibata, Koichiro y Delicia Regalado

2021 Aportes de las investigaciones en Cerro Blanco y Huaca Partida, valle bajo de Nepeña. 1er Coloquio Internacional de Arqueología de Ancash, 12 de abril, 2021, Huaraz, Perú (en línea).

【その他】

大城道則・芝田幸一郎・角道亮介

2023 『考古学者が発掘調査をしていたら, 怖い目にあった話』ポプラ社, 東京. ※エッセイ等一般書, 担当頁3-5 (はじめに), 145-240 (ペルーの発掘調査).

菅原 琢磨

2020年4月～2024年3月までに公刊された主要な研究業績は以下の通りです。

(和文論文)

1. 小黒一正, 後藤励, 菅原琢磨, 他「イノベーティブな医薬品の評価と新たな薬価システムの枠組みの検討」『薬理と治療』48巻5号, pp.753-62 (2020年5月).
2. 菅原琢磨「「新たな日常」における医療保険制度改革の行方」『健康保険』(74巻10号), pp14-19. (2020年11月).
3. 菅原琢磨「外来受診決定時における「定額自己負担」の相対的重要性の検証—コンジョイント分析による部分効用値推定に基づく分析—」『医療と社会』31巻1号, pp31-44. (2021年7月).
4. 菅原琢磨「医療保険制度の課題と将来—制度の持続性確保に向けた取り組みの論点—」『週刊 社会保障』76巻3182号, pp46-51. (2022年8月).

5. 石川 鎮清, 木村 哲也, 中村 好一, 近藤 克則, 尾島 俊之, 菅原 琢磨「医療経済学研究人材を取り巻く環境と課題」『日本健康開発雑誌』第44巻, pp3-12. (2023年).

(英語論文)

1. Jakovljevic M, Klazien Matter-Walstra, T.Sugahara et.al. (2020)“ Cost-effectiveness and resource allocation (CERA) 18 years of evolution: maturity of adulthood and promise beyond tomorrow”. *Cost Effectiveness and Resource Allocation* 18/15 . Springer Nature. 10.1186/s12962- 020-00210-2.
2. Jakovljevic M, T.Sugahara, Timofeyev Y, Rancic N.(2020) “Predictors of (in) efficiencies of Healthcare Expenditure Among the Leading Asian Economies–Comparison of OECD and Non-OECD Nations”. *Risk Management and Healthcare Policy* 13, p2261-80. Dove Press Ltd. 10. 2147/RMHP.S266386.
3. Brian Godman, T.Sugahara et al.(2021) “Current utilization patterns for long- acting insulin analogues including biosimilars among selected Asian countries and the implications for the future”.*Current Medical Research and Opinion* 37/7 Taylor&Francis. 10. 1080/03007995. 2021. 1946024.
4. Jakovljevic M,Wenqing W, J Merrick, Arcadio C, Mirjana V and T.Sugahara. (2021) “Asian innovation in pharmaceutical and medical device industry -beyond tomorrow-”. *Journal of Medical Economics*, Vol.24 (Issue Sup). 110.1080/13696998.2021.2013675.
5. T.Sugahara. (2023) “Challenges and Prospects in the Medical Device Industry -Heading toward a Leading Japanese Industry-” *Journal of International Economic Studies*,37, pp.55 -67.The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University.

6. M.Tamura and T.Sugahara. (2023) “Comparison of Reimbursement Pricing Systems for Medical Devices in Japan and Other Countries”. *Journal of International Economic Studies*, 37, pp.23-37. The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University.

(書籍編著・分担執筆等)

1. 菅原琢磨「「新たな日常」における医療保険制度改革とこれからの薬価制度」小黒一正編『人口動態変化と財政・社会保障の制度設計』第8章 pp215-240. 日本評論社 (2021年).
2. 田村誠・菅原琢磨「諸外国の材料価格制度」菅原琢磨 編『医療機器産業論－リーディング産業に向けた課題と展望』第12章pp237-259. 日本評論社 (2022年3月).
3. 菅原琢磨「医療機器産業の課題と展望」菅原琢磨 編『医療機器産業論－リーディング産業に向けた課題と展望』第14章pp281-298. 日本評論社 (2022年3月).
4. 菅原琢磨「「迫り来る危機」を正しく認識する/超少子高齢社会で「医療財政と提供体制」はどう変わるべきか」TMA近未来医療会議/監修：尾崎治夫『近未来のTOKYO医療に希望はあるか?』第1章pp21-55. 小学館 (2023年5月).

(その他, 一般誌・新聞紙面等への寄稿等)

1. 菅原琢磨「Interview調整幅「そもそも何かという議論は必要」」『医薬経済』PP14-15. (2021年9月1日).
2. 菅原琢磨「巻頭言:標準化と多様性を両立させる制度対応」『医療経済研究』Vol.33 No.1 (2021年10月18日).
3. 菅原琢磨他 「座談会:サステナブルな社会保障制度のための財源について－持続可能な薬価制度を考える第1回」『社会保険旬報』No.2836 (2021年11月1日).

4. 菅原琢磨他 「座談会:イノベーションの評価と医療保険財政についてー持続可能な薬価制度を考える第2回」『社会保険旬報』No.2837 (2021年11月11日).
5. 菅原琢磨他 「座談会:将来を見据えた, 医薬品の適切な評価についてー持続可能な薬価制度を考える第3回」『社会保険旬報』No.2840 (2021年12月11日).
6. 菅原琢磨 「2040年に向け医療の抜本的改革を提言:TMA近未来医療会議 第1回公開シンポジウム講演 要旨」『社会保険旬報』No.2856 (2022年5月21日).
7. 小黒一正・菅原琢磨 「創薬への意欲失わせるな」日本経済新聞 経済教室 (2022年6月28日).
8. 菅原琢磨 「超少子高齢社会の到来を見据えた『近未来』の医療とそれを支える財政のあり方に関する提言の概要について」『東京都医師会雑誌』Vol.75 No.10, pp3-12. (2022年12月15日).

Robert Stroud

Books:

Stroud, R. (2021). Performance Goal-Setting and Feedback for Second Language Tasks: An Empirical Study of TBLT Group Discussions. GRIN Verlag.

Journal Publications:

Stroud, R. (2023). Using inner speech checklists to nurture L2 discussion task fluency: Reactions from within Japanese university classrooms, *Journal of Silence Studies in Education*, 3 (1), 33-44.

Stroud, R. & Harris, S. (2022). Improving Classroom Speeches with a Scaffolded Three-Stage Model. *The PanSig Journal 2021*, 14-22.

Stroud, R. (2022). Engaging Japanese University Students in Online Project-Based Learning. *The Hosei University Economics Forum*, 38, 1-26.

Stroud, R. (2020). Technology for Engaging Learners in Online Intercultural Exchange. Proceedings of 181st ISERD International Conference, London, United Kingdom, 07th -08th March

Conference Presentations:

SMART Check: Self-Scored Speech in Large Mixed-Level Classes

Location: JALT 2023 (Tsukuba, Japan)

Date: November 25th, 2023

Breaking Classroom Silence with the Traffic Light Trainer

Location: JALT 2023 (Tsukuba, Japan)

Date: November 25th, 2023

SMART Check Tables: Oral English self-scoring in large mixed-level classes

Location: PanSIG 2023 (Kyoto, Japan)

Date: May 14th, 2023

The Traffic Light Trainer: Say Goodbye to Silent Classes

Location: PanSIG 2023 (Kyoto, Japan)

Date: May 14th, 2023

A Self-Scoring Model for Improving Oral Skills in Large Mixed-Level Classes

Location: JALT 2022 (Fukuoka, Japan)

Date: November 12th, 2022

Traffic Light Trainer: Goodbye to Silent Classes

Location: PanSIG 2022 (Nagano, Japan)

Date: July 9th, 2022

Boost Motivation and Achievement with a SMART Class Design

Location: PanSIG 2022 (Nagano, Japan)

Date: July 9th, 2022

Making Classes SMART to Boost Student Motivation and Achievement

Location: JALT 2021 (online)

Date: November 13th, 2021

Scaffolding Oral Task Difficulty to Enhance Engagement and Performance

Location: JALT 2021 (online)

Date: November 13th, 2021

Making Classes 'SMART' to Boost Motivation and Achievement

Location: PanSIG 2021 (online)

Date: May 16th, 2021

Generating Interactive Classrooms with a Scaffolded Three-Stage Model

Location: PanSIG 2021 (online)

Date: May 16th, 2021

Technology for Engaging Learners in Online Intercultural Exchange

Location: International Conference on Education and E-Learning (ICEEL),

London, U.K.

Date: March 8th, 2020

武田 浩一

私の2020年4月から2024年3月の主な研究の公刊状況は次の通りです。

【論文】

The Impact of Information Technology Investment Announcements on the Market Value of the Japanese Regional Banks, Finance Research Letters, 41, 101811-101811, 2020. (coauthored with Takeda, F, Takemura, T., Ueda, R.)

「グリット（やり抜く力）と家計の金融資産蓄積の関係」『行動経済学』, 13, p.5-7, 2021. (末廣徹・神津多可思・竹村敏彦と共著)

「個人の金融資産形成とリスク・リテラシー」法政大学比較経済研究所 Discussion Paper, 21-J-001, 1-13. 2022. (神津多可思・竹村敏彦と共著)

行動ファイナンスの視点を踏まえた個人のリスク資産保有比率の決定要因に関する実証分析, 城西大学経済経営紀要, 42, p.31-48, 2024. (竹村敏彦・神津多可思・末廣徹と共著)

「新NISAは追加的な投資ニーズにつながるのか～新NISA選好度の属性分析」法政大学比較経済研究所Discussion Paper, 23-J-001, 1-11, 2024. (末廣徹・神津多可思・竹村敏彦と共著)

「金融リテラシー, リスク・リテラシーと個人の金融資産形成」法政大学比

比較経済研究所Discussion Paper, 23-J-002, 1-23. 2024. (武田史子・神津多
可思・竹村敏彦・末廣徹と共著)

以上

田村 晶子

[論文]

- “Empirical Study on Capital Budgeting as a Management Process: Evidence from, Japanese Manufacturing Firms” (Joint), in *Frontiers of Japanese Management Control Systems (Translational Systems Sciences)*, Springer, pp79-93, May 2023
- “Matching Capital Investment Management with Business Strategy”, 『経済志林』, 88巻, 4号, pp403-427, March 2021

[学会発表]

- 「マクロデータの分析から見えたわが国事業部制企業の特徴」, (共著), 日本管理会計学会全国大会, 2023年8月
- 「ゾンビ企業の組織的特徴 マイルズスノーの戦略論の観点から」, (共著), 日本管理会計学会全国大会, 2022年8月

[競争的研究費獲得]

- 研究代表者：科学研究費 基盤研究 (C) 2024～2027年度, 研究課題名「企業を戦略不全から脱却させる直接投資戦略」
- 研究代表者：科学研究費 基盤研究 (C) 2019～2024年度, 研究課題名「戦略不全企業を考慮した国際競争力を高める直接投資戦略の実証研究」

[比較経済研究所・プロジェクト]

2020～2024年度「戦略不全企業を考慮した国際競争力を高める直接投資戦

略の実証研究」

以上

田村理香

“Walt Whitman’s Love, Obsession, and Patriotism”『法政大学多摩論集』
第40巻, 2024年3月, pp.151-170.

西澤栄一郎

論文

「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号, pp.106-119. (2022年9月)

“Political Science on Agri-Environmental Policy: From a Perspective of Environmental Policy Integration”, *Japanese Journal of Agricultural Economics*, Vol. 25, pp.5-7. (March 2023)

翻訳

ニック・ハンレー, ジェイソン・ショグレン, ベン・ホワイト著, 田中勝也編訳『環境経済学入門』（「第10章 水質改善の経済学」担当）昭和堂 pp.331-363. (2021年10月)

その他の出版物

「ヨーロッパの事例(特集 生物多様性を推進するこれからの農業のありかた)」『野鳥』第85巻9号 (2020年11・12月号), p17. (2020年11月)

「環境保全との両立が求められる食料生産」生源寺眞一編『21世紀の農学

持続可能性への挑戦』培風館，第9章，pp.139-156。（2021年11月）

「農業の近代化と政策の流れ」『自然保護』No.591（2023年1-2月号），pp.6-7。（2023年1月）

口頭発表

「ヨーロッパにおける成果連動型支払い」日本生態学会第69回全国大会・自由集会（オンライン）2022年3月18日

「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」日本農業経済学会大会シンポジウム報告，2022年3月26日（龍谷大学・オンライン）

「多面的機能を考える」農業「基本法」改正と“多面的機能”を考える集い（法政大学）2023年1月21日

馬場 敏 幸

研究業績（2020～2023年度）

1. 原著論文

① 英語論文

- 1) Toshiyuki BABA (2023), "Resilient and Sustainable Operations: Beyond the COVID-19 Pandemic", Conference Paper, 31th International Colloquium of Gerpisa (June 2023 Brussel)
- 2) Toshiyuki BABA (2022), "The Impacts of the COVID-19 Pandemic on Automobile Production and the Global Value Chain of Automotive Parts", Conference Paper, 30th International Colloquium of Gerpisa (June 2022)

Detroit)

- 3) Toshiyuki BABA (2021), "How Brazilian Die/mold Cluster Birth and Progress: Joinville Mechanism", Conference Paper, 29th International Colloquium of Gerpisa (June 2021 Paris)
- 4) Toshiyuki BABA (2020), "Changes in the Auto Parts Global Value Chain between 2000 and 2018", Conference Paper, 28th International Colloquium of Gerpisa (June 2020 USA)

② 日本語論文

- 1) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナウイルス (COVID-19) によるブラジル自動車産業への影響分析」研究・イノベーション学会 第38回 年次学術大会 講演予稿集 1C21 (2023.10.28). The Impact of the COVID-19 to the Automobile Industry in Brazil.
- 2) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナ禍から考える強靱なMOT戦略: 自動車産業のケーススタディより」日本MOT学会 第14回 年次学術大会 講演予稿集 (2023.3.11), Resilient MOT Strategy considering by the Covid-19 Case studies of automobile industry
- 3) 馬場敏幸 (2022) 「新型コロナウイルス (COVID-19) による自動車産業への影響分析: リーマン・ショックとの比較分析」研究・イノベーション学会 第37回 年次学術大会 講演予稿集 2E18 (2022.10.30), The Impact of COVID-19 to the Automobile Industry : Comparative study with the Global Financial Shock 2009 and Covid-19 2020.
- 4) 馬場敏幸 (2022) 「ブラジル金型企業創業と金型産業集積形成の史的 研究: ジョインヴィレ金型産業集積のオーラルヒストリー」法政大学経済学部学会, 経済志林, 89(2), (2022-03)
- 5) 馬場敏幸 (2022) 「ブラジルコストに挑むブラジル金型企業: ジョインヴィレ企業のケーススタディ」日本MOT学会 第13回 年次学術大会 講演予稿集 (2022.3.19), A Challenge to the Brazilian Costs by Brazilian

die/mold manufactures

- 6) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル地場プレーヤーによる金型産業集積地の比較分析:欧州からの移民によって成立したジョインヴィレとカシアス・ド・スル」 研究・イノベーション学会 第36回 年次学術大会 講演予稿集 2H17 (2021.10.31), A Comparative Study of Die/mold Clusters by Brazilian owners: Joinville and Caxias do Sul
- 7) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジルの金型産業・金型産業集積のはじまりと発展:ジョインヴィレメカニズム」 法政大学経済学部学会, 経済志林, 88 (4), 333-361 (2021-03-20)
- 8) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル金型産業集積の創始:ジョインヴィレ・メカニズム」 日本MOT学会 第12回 年次学術大会 講演予稿集 (2021.3.13)
- 9) Tran Thi Quynh Trang&馬場敏幸 (2020) 「ベトナム自動車産業の発展とグローバルバリューチェーン (GVC) の変遷」 研究・イノベーション学会 第35回 年次学術大会 講演予稿集 1F09 (2020.10.31)
- 10) 馬場敏幸 (2020) 「自動車部品グローバルバリューチェーン (GVC) 変化 (2000~2018年)」 研究・イノベーション学会 第35回 年次学術大会 講演予稿集 1F10 (2020.10.31)

③ 雑誌連載 (型技術)・新聞記事など

- 1) 馬場敏幸 (2024) 「新型コロナの衝撃11:世界有数の自動車生産大国を目指すインドネシア」型技術 39巻3号 pp. 98-99 (2024.3), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 11: Indonesia, aiming an automobile industry of world leading
- 2) 馬場敏幸 (2024) 「新型コロナの衝撃10:新型コロナ下での世界金属プレス金型需要 (2019~2021年)」型技術 39巻1号 pp. 96-97 (2024.1), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 10: Global demand of dies for stamping (2019~2021年)

- 3) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃9 : 日本の金型産業とグローバル市場 (2021年)」型技術 38巻11号 pp. 98-99 (2023.11), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 9: Global and Japanese Die/Mold Market(2021)
- 4) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃8 : 金型産業への影響 (2020年)」型技術 38巻9号 pp. 98-99 (2023.9), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 8: The impact for Japanese Die/Mold industry 2020
- 5) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃7 : いく度にもわたる減産を乗り越えて (2020~2022年振り返り)」型技術 38巻7号 pp. 138-139 (2023.7), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 7: Get over several production reduction (2020~2022)
- 6) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃6 : 新型コロナの日本自動車産業への影響 (2022年)」型技術 38巻5号 pp. 106-107 (2023.5), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 6: The impact for Japanese automobile industry 2020
- 7) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃5 : 新型コロナの日本自動車産業への影響 (2021年)」型技術 38巻3号 pp. 106-107 (2023.3), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 5: The impact for Japanese automobile industry 2021
- 8) 馬場敏幸 (2023) 「新型コロナの衝撃4 : 新型コロナの日本自動車産業への影響 (2020年)」型技術 38巻1号 pp. 106-107 (2023.1), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 4: The impact for Japanese automobile industry 2020
- 9) 馬場敏幸 (2022) 「新型コロナの衝撃3 : 同国自動車産業の祖, フォード撤退にまでおよんだブラジル」型技術 37巻11号 pp. 108-109 (2022.11), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 3: Brazil, Ford withdraw
- 10) 馬場敏幸 (2022) 「新型コロナの衝撃2 : 新型コロナウイルスに断固と

- して立ち向かったフランス」型技術 37巻9号 pp.106-107 (2022.9), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 2: France confronting against the Colona
- 11) 馬場敏幸 (2022) 「新型コロナの衝撃1 : コロナ禍で自動車市場への影響の大きかった世界, 不思議に影響が小さかった中国」型技術 37巻7号 pp. 134-135(2022.7), The Impact of COVID-19 for the Automobile Industry 1: Big impact to the world, small impact to the China
- 12) 馬場敏幸 (2022) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語7 : 樹脂成形用金型か金属プレス用金型か?」型技術 37巻5号 pp. 106-107 (2022.5), Brazil Die/Mold Cluster Joinville Story 7: Molds or Stumping Dies ?
- 13) 馬場敏幸 (2022) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語6 : 二代目, ブラジルコスト問題打破にチャレンジ」型技術 37巻3号 pp. 106-107 (2022.3), Brazil Die/Mold Cluster Joinville Story 6: Challenging to the Brazil Cost Issue
- 14) 馬場敏幸 (2022) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語5 : イタリアで技術を高めたJN社」型技術 37巻1号 pp. 106-107 (2022.1), Brazil Die/Mold Cluster Joinville Story 5: JN
- 15) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語4 : つながる創業, 第二世代の金型企業」型技術 36巻11号 pp. 106-107 (2021.11), Die/Mold Cluster Joinville Story 4: Second Generations
- 16) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語3 : ジョインヴィレの草分け金型企業の誕生」型技術 36巻9号 pp.106-107 (2021.9), Brazil Die/Mold Cluster Joinville Story 3: Birth of pioneer companies
- 17) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語2 : タッピー社とティグレ社」型技術 36巻7号 pp.134-135 (2021.7), Brazil Die/Mold Cluster Joinville Story 2: Tuppy and Tigre

- 18) 馬場敏幸 (2021) 「ブラジル金型の郷・ジョインヴィレ物語 1 : ブラジル南部の工業都市ジョインヴィレ」型技術 36巻5号 pp. 106-107 (2021.5)
- 19) 馬場敏幸 (2021) 「ガソリンエンジン, ディーゼルエンジン部品のグローバルバリューチェーン (GVC):ビッグ, ホープ, ニューカマー」型技術 36巻3号 pp. 106-107 (2021.3)
- 20) 馬場敏幸 (2021) 「ディーゼルエンジンのグローバルバリューチェーン (GVC):ディーゼルエンジンのGVCは2000年からどう変わった?」型技術 36巻1号 pp. 104-105 (2021.1)
- 21) 馬場敏幸 (2020) 「ガソリンエンジンのグローバルバリューチェーン (GVC):ガソリンエンジンのGVCは2000年からどう変わった?」型技術 35巻11号 pp. 106-107 (2020.11)
- 22) 馬場敏幸 (2020) 「自動車部品のグローバルバリューチェーン (GVC):自動車部品のGVCは2000年からどう変わった?」型技術 35巻9号 pp. 104-105 (2020.9)
- 23) 馬場敏幸 (2020) 「モールド金型と金属プレス金型の世界GVC変化の比較(2000年~2018年)」型技術 35巻7号 pp. 134-135 (2020.7)
- 24) 馬場敏幸 (2020) 「プレス金型のグローバルバリューチェーン (GVC):今日のプレス金型GVCは2000年からどう変わった?」型技術 35巻5号 pp. 94-95 (2020.5)

2. その他実績

① 講演・学会発表 (国内)

- 1) 「新型コロナウイルス (COVID-19) によるブラジル自動車産業への影響分析」研究・イノベーション学会 第38回 年次学術大会 1C21 (2023.10.28). The Impact of the COVID-19 to the Automobile Industry in Brazil.
- 2) 「新型コロナ禍から考える強靱なMOT戦略:自動車産業のケーススタ

- ディより」日本MOT学会 第14回 年次学術大会 (2023.3.11), Resilient MOT Strategy considering by the Covid-19 Case studies of automobile industry オンライン
- 3) 「新型コロナウイルス (COVID-19) による自動車産業への影響分析 : リーマン・ショックとの比較分析」研究・イノベーション学会 第37回 年次学術大会 2E18 (2022.10.30), オンライン, The Impact of COVID-19 to the Automobile Industry : Comparative study with the Global Financial Shock 2009 and Covid-19 2020.
- 4) 「ブラジルコストに挑むブラジル金型企業:ジョインヴィレ企業のケーススタディ」日本MOT学会 第13回 年次学術大会 (2022.3.19) オンライン
- 5) 「ブラジル地場プレーヤーによる金型産業集積地の比較分析:欧州からの移民によって成立したジョインヴィレとカシアス・ド・スル」研究・イノベーション学会 第36回 年次学術大会 講演予稿集 2H17 (2021.10.31) オンライン
- 6) 「ブラジル金型産業集積の創始:ジョインヴィレ・メカニズム」日本MOT学会 第12回 年次学術大会 (2021.3.13) オンライン
- 7) Tran Thi Quynh Trang&馬場敏幸 (2020) 「ベトナム自動車産業の発展とグローバルバリューチェーン (GVC) の変遷」研究・イノベーション学会 第35回 年次学術大会 (2020.10.31) オンライン
- 8) 「自動車部品グローバルバリューチェーン (GVC) 変化 (2000~2018年)」研究・イノベーション学会 第35回 年次学術大会1F10 (2020.10.31) オンライン
- ② 講演・学会発表 (海外)
- 1) ” Resilient and Sustainable Operations: Beyond the COVID-19 Pandemic”, Conference Paper, 31th International Colloquium of Gerpisa (June 2023 Brussel)

- 2) “The Impacts of the COVID-19 Pandemic on Automobile Production and the Global Value Chain of Automotive Parts”, 30th International Colloquium of Gerpisa (June 2022 Detroit) Online
- 3) ”How Brazilian Die/mold Cluster Birth and Progress: Joinville Mechanism”, Conference Paper, 29th International Colloquium of Gerpisa (June 2021 Paris) Online
- 4) ”Changes in the Auto Parts Global Value Chain between 2000 and 2018”, 28th International Colloquium of Gerpisa (June 2020 USA) Online

③ 科学研究補助金・研究プロジェクトなど

研究代表者

- 1) 2018～2021 科研費 基板 (C) 「ブラジル金型産業の再評価」
(18K01768) (4,420円) (新型コロナにより2024年度まで延長)

【委員・理事 他】

- 2022～23年度 経済産業省「クリーンエネルギー自動車導入促進補助金」
- 2022～23年度 経済産業省「クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金」
- 2020～23年度 経済産業省「自動車産業取引適正化ガイドライン策定委員会」 委員
- 2020～23年度 経済産業省「素形材産業取引適正化ガイドライン策定委員会」 委員
- 2020～21年度 経済産業省「クリーンエネルギー自動車導入促進補助金（車両・充電インフラ等導入補助事業）」 委員
- 2020年度 経済産業省「災害時にも活用可能なクリーンエネルギー自動車導入事業費補助金」 委員
- 2020年度 環境省「再エネ電力と電気自動車や燃料電池自動車等を活用したゼロカーボンライフ・ワークスタイル先行導入モデル事業」 委員

2020～21年度 経済産業省「サプライヤー応援隊」委員
 2020～23年度 NPOアジア金型フォーラム 理事
 2021～23年度 研究イノベーション学会 編集委員
 2020年度 研究イノベーション学会 編集理事
 以上

ブー・タウン・カイ

研究業績（2020年～2024年）

刊行された著書・論文等

1. ブー・タウン・カイ, 「バラッサ・サミュエルソン効果を考慮に入れた長期為替レート予測モデル」, 法政大学経済学部学会, 経済志林 88 (4), 147-164, 2021年3月.
2. 中田勇人, ブー・タウン・カイ, 「石油価格ショックと地域間の異質性: 日本のケース」, 明星大学経済学研究紀要, 第54巻第1号, 2022年6月.
3. ブー・タウン・カイ, 「ベクトル自己回帰 (VAR) モデル」, 植村仁一編『マクロ計量モデルの活用』第1章第3節, アジア経済研究所, 2022年10月.
4. ブー・タウン・カイ, 「東アジアにおけるFDIと輸出, GDPの関係 — ベトナムのケースを中心に」, 植村仁一編『マクロ計量モデルの活用』第3章, アジア経済研究所, 2022年10月.
5. Vu, Tuan Khai, “Remittances, the Dutch Disease, and Premature Deindustrialization in the Philippines,” 法政大学経済学部学会, 経済志林 90 (1-2), 147-164, 2022年10月.
6. ブー・タウン・カイ, 「産業構造変化の原動力 — フィリピン経済を事例に」, 法政大学経済学部学会, 経済志林 91 (3), 119-146, 2023年12月.
7. ブー・タウン・カイ (編), 『東アジア諸国の開放経済 — 国際マク

ロ経済、貿易、投資、および経済発展に関する実証研究』（法政大学比較経済研究所 研究シリーズ38）、日本評論社、2024年3月。

8. 井上智夫, ブー・トウン・カイ, 「東アジア諸国に対する中国経済の影響力の変遷 ——総需要・総供給ショックが識別可能なGVARを用いた分析」, ブー・トウン・カイ 編『東アジア諸国の開放経済 ——国際マクロ経済、貿易、投資、および経済発展に関する実証研究』, 第3章, 日本評論社, 2024年3月。
9. ブー・トウン・カイ, 井上智夫, 「資本規制が株式市場の国際的連関に与える影響 ——東アジア諸国に焦点を当てる分析」, ブー・トウン・カイ 編『東アジア諸国の開放経済 ——国際マクロ経済、貿易、投資、および経済発展に関する実証研究』, 第4章, 日本評論社, 2024年3月。

学会報告論文等

10. Vu, Tuan Khai, “Remittances, Labor Supply, and the Dutch Disease: An Investigation Using a Structural Vector Autoregression,” Paper presented at the Asian Meeting of the Econometric Society 2023 (Nanyang Technological University, Singapore, Aug 2023).

山田 快

過去4年間（2020年4月—2024年3月）における研究業績一覧

【著書】

- ① 山田 快 (2024) 過去を尊重し、未来を考える。荒井弘和ほか編, 39人の言の葉～あの時、こころに響いたのは理由がある～。杏林書院, pp. 18-21.
- ② 伊藤雅充・土屋裕睦・荒井弘和・黒岩 純・佐良土茂樹・相馬浩隆・橋口泰一・深見英一郎・古川佑生・本間三和子・松井陽子・山田 快 (2022) 実践！グッドコーチング・レベルアップ編。PHP研究所。

- ③ 山田 快・荒井弘和（2022）メンタルトレーニング．藤後悦子ほか編，部活動指導員ガイドブック [応用編]．ミネルヴァ書房，pp. 21-41.

【論文】

- ① （査読無）小高 巧・山田 快（2024）競技者におけるレジリエンス：チームの信念，指導者との人間関係との関連．法政大学スポーツ研究センター紀要，42：49-52.
- ② （査読無）堀本菜美・山田 快（2022）運動部活動においてパワーハラスメントを行使する指導者に対して選手が抱く感情．法政大学スポーツ研究センター紀要，40：37-40.
- ③ （査読有）山田 快・堀本菜美・長谷川賢典（2022）アスリートにとって優れたコーチの特徴．スポーツ心理学研究，49（2）：157-168.
- ④ （査読有）山田 稔・林 容市・山田 快・西嶋尚彦・末永祐介・田原康寛（2020）子ども達の体力向上を支援する効果的な取り組みの探索：教育委員会の活動の実際と学校現場での取り組み．スポーツ産業学研究，30（3）：285-296.

【発表】

- ① （口頭）山田 快・泉 敏郎・清水智弘（2024）アスリートはコーチから何を学んでいるのか？．日本コーチング学会第35回大会.
- ② （ポスター）堀本菜美・中村美幸・山田 快・川田裕次郎（2023）運動部活動のパワーハラスメント尺度の開発．第58回人類働態学会全国大会．（優秀発表賞受賞）
- ③ （ラウンドテーブルディスカッション）山田弥生子・山田 快・橋口泰一・渋谷崇行・近藤みどり（2023）スポーツ心理学はスポーツ指導者養成にどのように貢献できるか．日本スポーツ心理学会第50回大会.
- ④ （口頭）山田 快・堀本菜美（2021）アスリートの自己調整学習を導くコーチの関与．日本スポーツ心理学会第48回大会.

【その他】

- ① 朝比奈茂・山田 快 (2021) SSI (スポーツ・サイエンス・インステ
ィテュート) の概要と展望. 大学時報, 70 (400) : 46-51.